

- 大阪府では、野生動植物の生息・生育環境の保全・再生・創出や、自然環境教育を進めるため、「生物多様性保全基金」を設置しています。
- 令和5年度は、企業・団体の皆様と連携し、府内における生物多様性の保全を進めるべく、「おおさか生物多様性応援宣言」登録制度を立ち上げました。登録者と連携し、普及啓発のイベントを実施したほか、府の「生物多様性ホットスポット」(※1)である「多奈川ビオトープ」(岬町)における保全活動・自然観察会開催に取り組みました。
- また、「大阪府特定外来生物アラートリスト」の作成や防除研修会の開催など、生物多様性に大きな影響を及ぼす特定外来生物の防除も推進しました。

※1：希少な野生動植物が生息・生育し、種の多様性が高い地域

1. 生物多様性についての普及啓発

- 生物多様性の保全に積極的に取り組むことを宣言いただいた「おおさか生物多様性応援宣言」登録企業・団体等と連携し、生物多様性の普及啓発に取り組みました。(R6.3末時点応援宣言登録者数：81企業・団体)。
- また、「大阪府生物多様性地域戦略」に基づく取組として、消費者視点での生物多様性と暮らしに関わる情報発信ツール「おおさか生物多様性なび(仮称)」の提供(R6年度予定)に向けた検討を進めました。

■ 大阪府生物多様性シンポジウム「企業・団体と生物多様性」の開催(R5.8)

- ・企業・団体における生物多様性保全の取組みについて紹介いただきました。(参加者97名)



会場の様子



ポスター展示の様子

■ 応援宣言登録者や府内の生物多様性関連施設と連携した普及啓発(R5.6等)

- ・「いきものみどり つながるつなげるフェスティバル」(天王寺動物園にて開催)では、さかなつりゲームを通して外来種問題を発信しました。
- ・その他、「てんしば」や大阪市立自然史博物館におけるイベントでも府民の方への生物多様性普及啓発に取り組みました。

「在来種」と「外来種」のさかなつり・答え合わせの様子



■ 消費者視点での生物多様性と暮らしに関わる情報発信ツール提供に向けた検討

- ・生物多様性に関する世論調査(R4内閣府)では、生物多様性の保全に貢献する行動を制限する要因として、「何をしたらよいのか、よくわからないこと」を過半数が回答しています。
- ・幅広い府民の方に理解・行動いただくため、R5年度は日常生活の場面(「食べる」「暮らす」)における消費行動と生物多様性のつながりについて整理しました。R6年度に情報発信ツール「おおさか生物多様性なび(仮称)」として生物多様性に配慮した商品やお店、キャンペーン等と併せて情報発信予定です。



場面例1：「食べる」



場面例2：「暮らす」

2. 多奈川ビオトープ(岬町)における保全活動

- 毎月の保全活動や7回の自然観察会等を開催し、延べ170名以上の府民の方にご参加いただきました。

- ・多奈川ビオトープは、「関西空港二期事業」の土砂採取場所跡地に整備された「多奈川地区多目的公園」内にあります。
- ・大阪府では、かつて豊かな自然環境の中で暮らしていた生き物たちを呼び戻そうと、地元市町村やボランティアの皆様等と連携し、湿地や草地の創出・維持管理等に取り組んでいます。



多奈川ビオトープの様子



自然観察会の様子

- ・環境省「自然共生サイト」に認定されました(R6.3)

3. 特定外来生物(※2)の防除推進

- 府内で確認されている特定外来生物について分布状況や発見時の対応等を取りまとめたリストを公表しました。
- 大阪府立環境農林水産総合研究所と共催で「クビアカツヤカミキリ」防除研修会を開催しました。

■ 大阪府特定外来生物アラートリストの公表

- ・アライグマやヒアリ等、府内に侵入済みの34種について掲載し、イベントでの配付も行いました。

■ クビアカツヤカミキリの防除推進

- ・府内21市町村(R6.3末時点)に被害が拡大しているクビアカツヤカミキリの最新の防除技術についての研修会を開催しました。(参加者103名)



特定外来生物
クビアカツヤカミキリ



アラートリスト

※2：外来生物法で指定された、外来生物(海外起源の外来種)であって、従来の生態系や人間に及ぼす被害が大きい生物のこと。

